

焼岳西穂高岳縦走報告

2009 年 8 月 3 日(月)－ 4 日(火)

M3 只左一也

0 日目：高尾駅→(J R 各駅停車)→松本駅
(駅のホームで仮眠)

1 日目：松本駅→(松本電鉄)→新島々
→(バス)→中の湯→(中の湯ルート)→
焼岳→中尾峠→焼岳小屋→西穂山荘
(幕営)

2 日目：西穂山荘→西穂独標→西穂高岳→
天狗の頭→ジャンダルム→奥穂高岳
→穂高岳山荘)→涸沢診療所

1 日目 (8 月 3 日(月))

松本駅		04:30 発 (電車)
新島々	01:50 着	04:30 発 (バス)
中の湯	06:15 着	06:55 発
焼岳	10:00 着	10:40 発
焼岳小屋	11:20 着	11:50 発
西穂山荘	15:00 着	(幕営)
(歩行時間：約 6 時間半)		

元々、天気良ければ双六谷を遡行して涸沢に入るつもりだったが、悪天候続きで断念。代わりに、なんとか天気が好くなってくれることを期待して、2 日間で縦走できる念願の焼岳～西穂高岳～奥穂高岳ルートで涸沢に入る計画を立てたところ、前日までひどい天気だったのが嘘のように、2 日間とも素晴らしい天気となった。

前日の夜、中央本線各駅停車終電で松本まで移動。駅ホーム上の空調付きの待合室で仮眠を取った。

翌朝は始発の松本電鉄で新島々へ。天気が好くなるという予報を見て出かけてきたのか、人が多い。新島々から上高地行のバスに乗り、釜トンネル手前の中

の湯で降りた。バス停の前で支度していると、後から何本かバスが通り、その度に 1 人か 2 人下車して焼岳への登山道に入っていく。焼岳は百名山なのでやはり人気なのだろうか。私はのんびり支度して、7 時前に出発。

少し車道を歩いてから登山道に入る。見事なブナ林の中の急坂を登って行く。今回は西穂～奥穂の険しい稜線歩きということで、テント泊だったが徹底的に軽量化を図って荷物を日帰りですり使うようなザックに押し込んで来たので、快調に進み、先を歩いていた人たちをどんどん追い越す。しばらく登って行くと針葉樹林、ダケカンバ林と植生が変わり、鬱蒼とした森から明るい林になる。空を見上げると真っ青で、ときどき林の切れ目から穂高の方が見える。次第に傾斜が緩くなり、新中の湯ルートとの分岐に到着した。



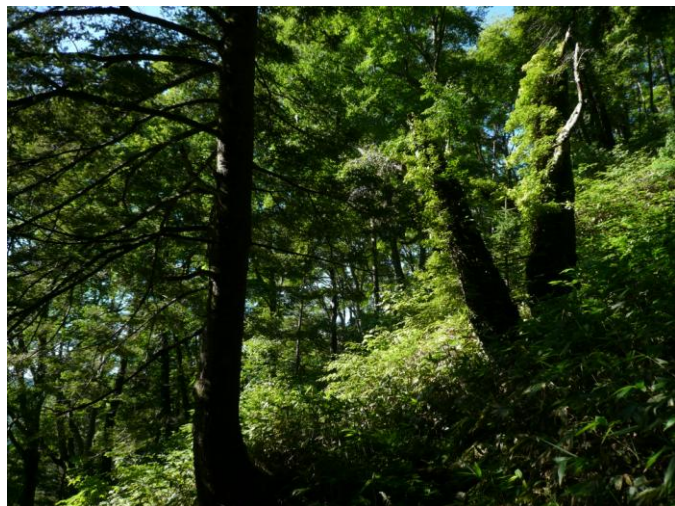
松本駅ホームの待合室で仮眠。虫がいないので快適。



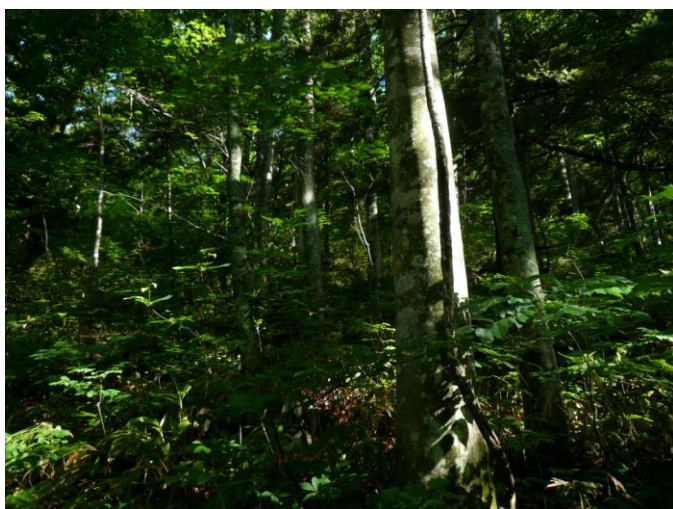
釜トンネル手前の中湯バス停で下車。



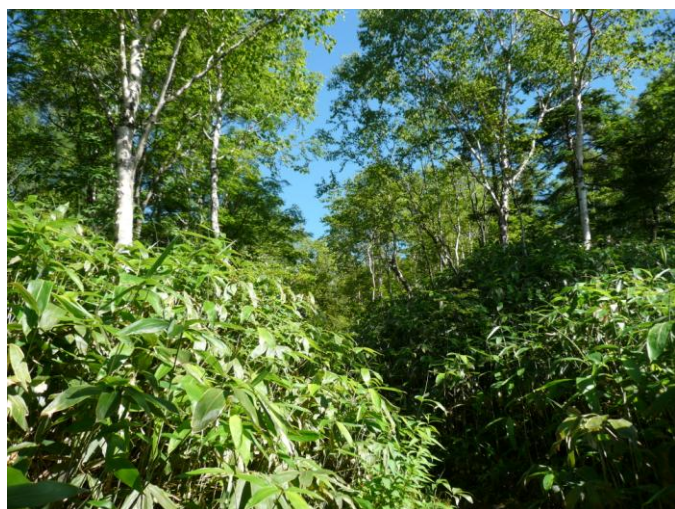
焼岳への登山道（中の湯ルート）入口。



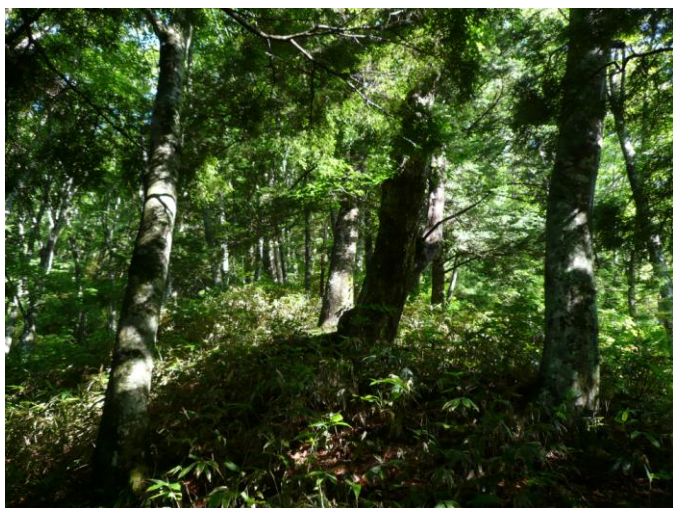
やがて針葉樹林に変わり、



見事なブナ林の中を登って行く。



ダケカンバ林になって明るくなる。傾斜も緩くなった。



正面には噴煙を上げる焼岳。



木々の間からは前穂高岳が覗く。



新中の湯ルートと合流。少し休憩。



樹皮の美しいダケカンバの樹。



奥穂高岳と前穂高岳。中央は吊尾根。



奥穂高岳～前穂高岳～明神岳の稜線。空は真っ青。この夏一番の天気となった。

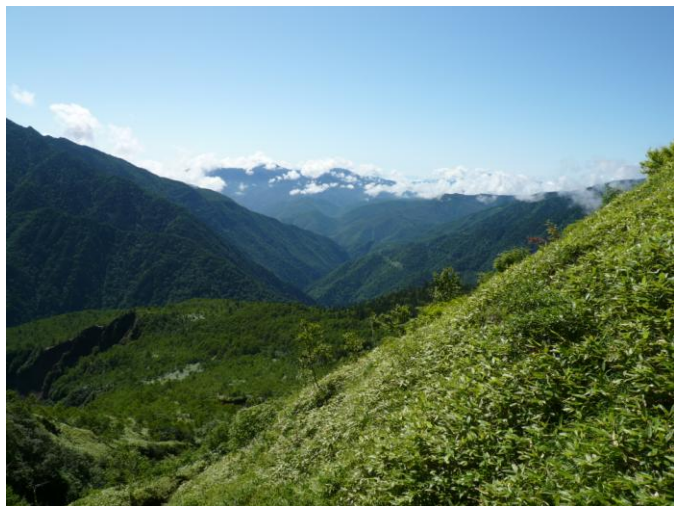


霞沢岳。

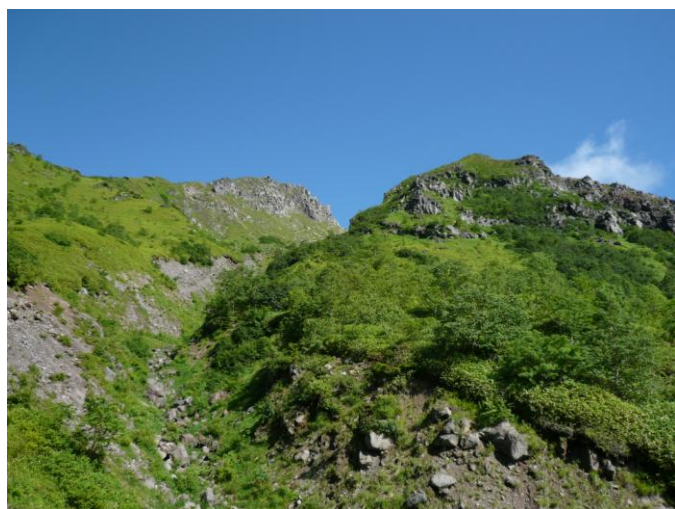
分岐で休んでいると、集団が新中の湯ルートに登ってくる。また、焼岳の方を見ると、点々と人が見える。

分岐からは明るい笹原の中を登って行く。なだらかに見えるが、意外と傾斜がきつい。景色を楽しみながらのんびり登って行くと、噴煙を上げている山頂が近付き、北峰と南峰のコルで稜線に出た。すぐ傍の岩場から噴煙が勢いよく上がっていて、なかなか迫力があつた。南峰は北峰よりも少し高いのだが立ち入り禁止なので、北峰の山頂に向かう。穂高の稜線には雲がかかり始めていたが、槍の穂先はかろうじて見えていた。

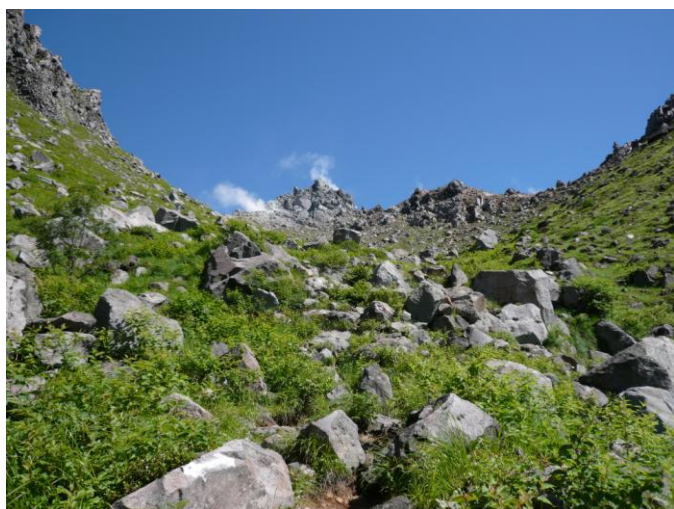
噴煙の上がる岩場を横目に見ながら山頂に登ると、すでに10人ほどの人が休んでいた。



後ろを振り返る。山の稜線に雲がかかり始めた。



焼岳を目指す。正面のコルの左が南峰、右が北峰。



コルの岩場から噴煙が上がっている。



気持ちの良い笹原の中を進む。



コルに到着。北峰からは噴煙が上がる。



コルの西にある池。



槍ヶ岳。



北峰山頂の岩場からは噴煙が上がる。



穂高の稜線に雲がかかる。





焼岳山頂に到着。写真には写っていないが、10人ほどの人が休んでいた。



北峰から見る南峰。南峰は立ち入り禁止。



山頂から上高地を見下ろす。

山頂で眺めを楽しんでから穂高を目指して出発すると、20人ほどの高齢者の集団がぞろぞろ登って来た。焼岳山頂から中尾峠までは庭園風の気持ちの良い尾根だが、ところどころから噴煙が上がっており、その周りの草木は枯れていた。天気が大変よく空も真っ青なのだが、穂高の稜線には雲がかかっていた。やがて焼岳小屋に到着。天気の悪かった昨日は、宿泊客は1人だけだったそうだ。



西穂高を目指して出発すると、上高地から20人ほどの高齢者の集団が登って来た。焼岳も人気の山のである。



写真中央に焼岳小屋（水色の屋根）が見える。



梓川を右手に見ながら稜線を下る。

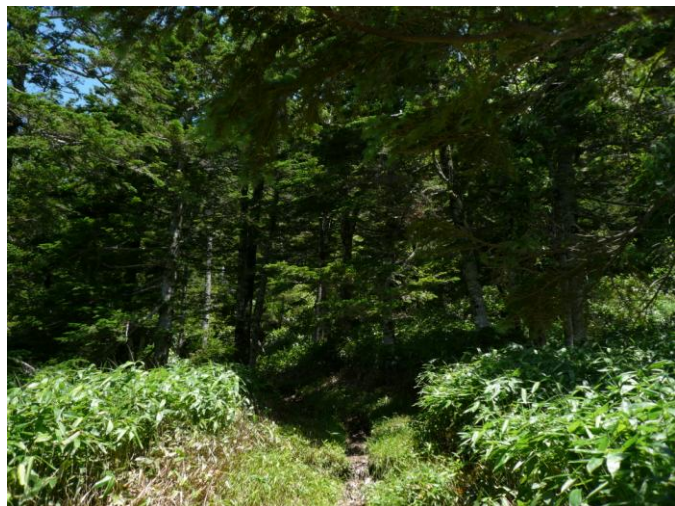


ところどころからうっすら噴煙が上がる。その周囲は草がはげて穴のようになっている。



笠ヶ岳。





焼岳小屋から先は鬱蒼とした原生林の中を進む。



焼岳小屋



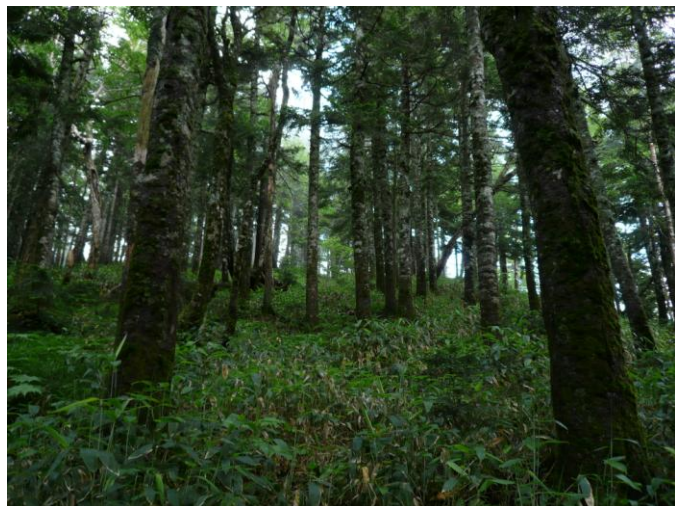
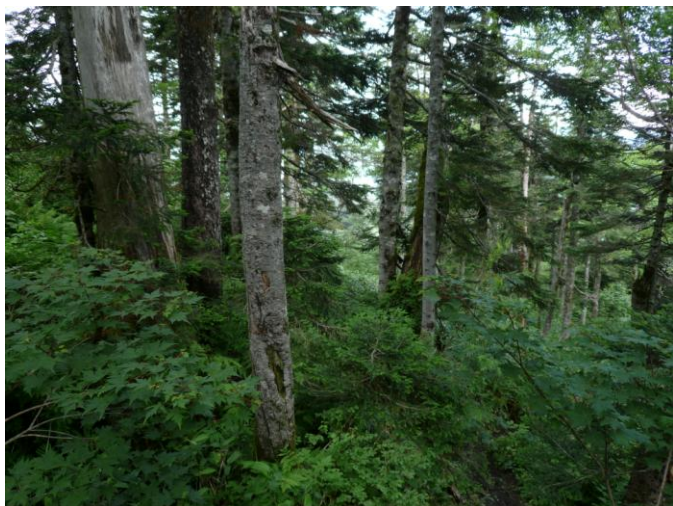
上高地のすぐ横にあるのになかなか登る機会のない霞沢岳。

焼岳小屋からは樹林帯の尾根道を進む。人もいなくなり、静かな深い原生林を楽しむことができた。ところどころある見晴らしの好いところで小休止を取りながら、3 時間後、西穂山荘に到着。ロープウェイで手軽に登れることもあって、かなりの混雑だった。

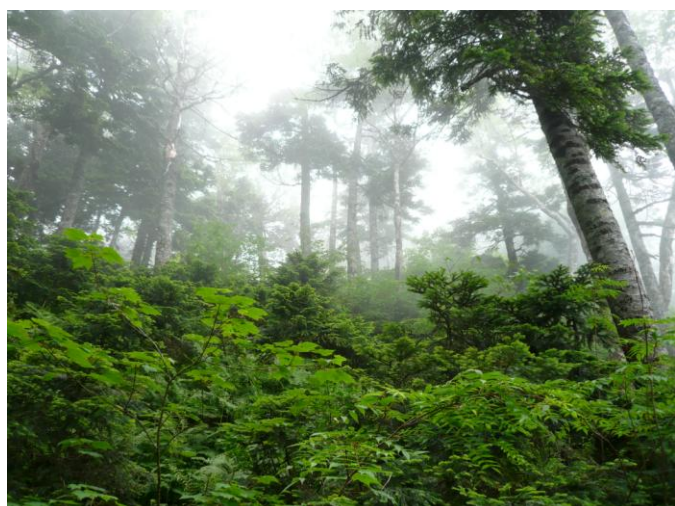
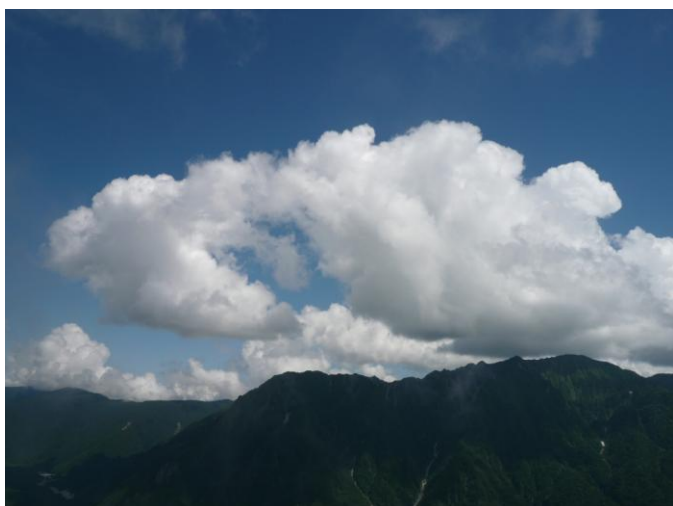
東邦大学の診療所に挨拶に伺ったら親切にもてなして下さった。ここは大学が運営していて、開所のときに山岳部員に荷揚げをする以外、学生は一切運営に関わらないらしい。ほとんどの登山客はロープウェイで一気に上がってくるためか、ほとんどが高山病の患者だそうである。

夕食を済ませて、縦走路の少し先の見晴らしの好いところまで登り、夕暮れの景色を楽しんだ。





西穂山荘の近くにある「きぬがさの池」。





上高地からの登山道と合流。右に行くと上高地、左に行くと西穂山荘。



お花畑に囲まれたテン場。30ほど張れる。



西穂山荘に到着。ここのラーメンは旨かった。



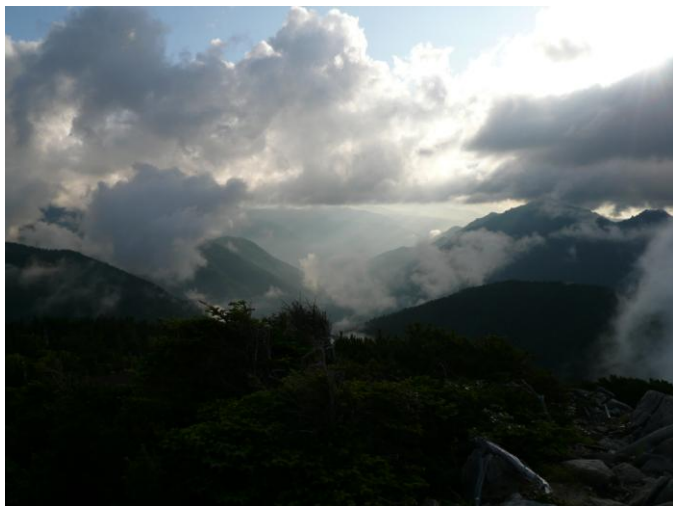
テン場の横のお花畑。



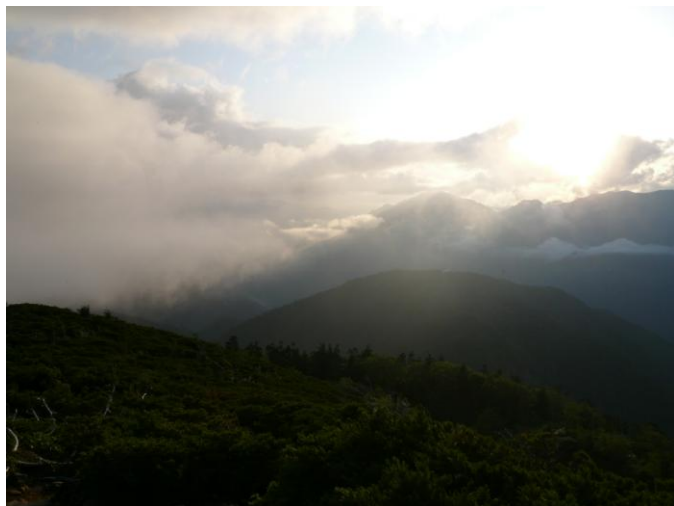
ロープウェイで近くまで登れるとあって、この通りの混雑。



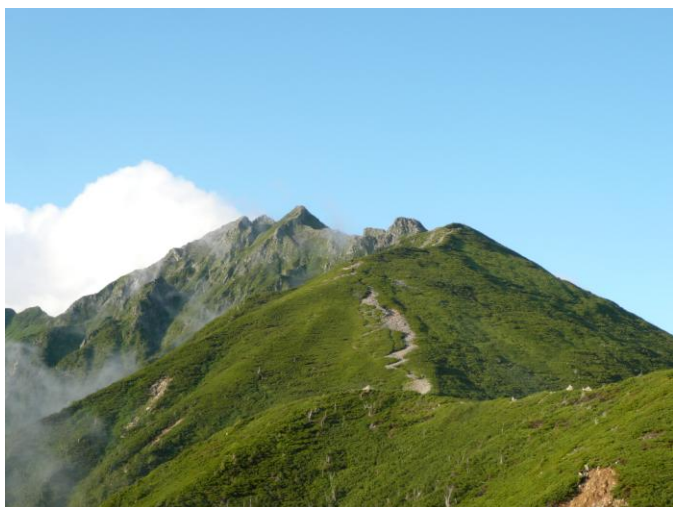
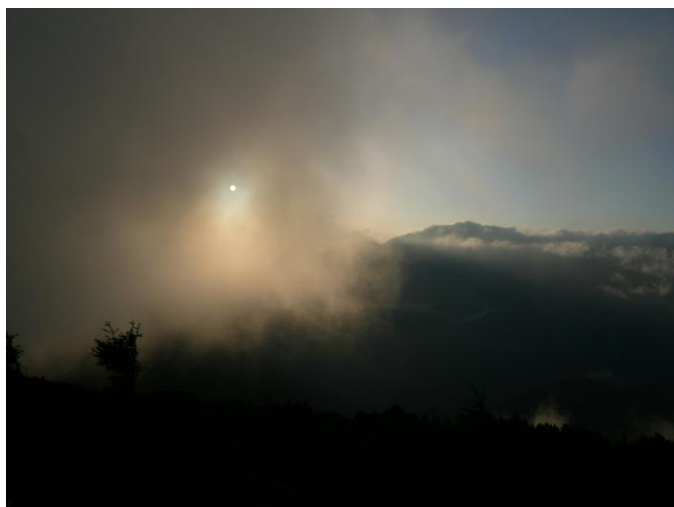
東邦大学の診療所にお邪魔した。大学が運営しているそうで、学生は最初の荷揚げの時しか関わらないらしい（荷揚げを山岳部の学生に頼んでいる）。あとはドクターと看護師のみで診療を行っている。



縦走路を少し登ると見晴らしのいいところがあった。
夕暮れの景色を楽しむ。



雲に隠れていた西穂高が次第に姿を現す。



左端から 2 番目のピークが西穂高岳 (2909m)。その
右の一番高く見えるのがピラミッドピーク、さらにそ
の右のドーム状のピークが昔大きな落雷遭難事故の
あった西穂独標 (2701m)。